

特色ある教育

全学連携教育機構

本学は、総合大学として、各教育組織それぞれの専門分野に立脚した教育課程の編成・実施方針に基づき体系的な教育を展開しています。他方において、急速に進展する情報化、グローバル化への対応能力の修得は、専門分野を問わずすべての学生に求められるものです。これらの汎用的能力として、①問題発見・解決能力、②自己発見・自己認識力、③情報

リテラシー能力、④日本語および外国語によるコミュニケーション能力等が挙げられます。

本学では、これらの汎用的能力の涵養に関する社会的要請に全学を挙げて対応していく体制を構築し、各学部等の教育体系との有機的な連携を図りながら全学的教育を展開するため、全学連携教育機構を設置しています。

<https://www.chuo-u.ac.jp/connect/future/>



ファカルティリンケージ・プログラム(FLP)

FLPは、幅広い学問領域をもつ総合大学のメリットを活かした教育プログラムです。FLP独自に設計された演習科目と各学部に設置された授業科目をピックアップして、5つのプログラムを設定しています。所属学部で主専攻を修めながら、学部の枠を越え、座学だけでなく、フィールドワークなどの実践的な学びから広い視野と柔軟な思考を養います。

設置プログラム

- 環境・社会・ガバナンス
- メディア・ジャーナリズム
- 国際協力
- スポーツ・健康科学
- 地域・公共マネジメント

グローバルFLP

グローバルFLPは、実学教育を通じて修得した専門知識・技能を、グローバル社会で発揮できる「グローバル・プロフェッショナル」の育成を目指し、すべての科目を少人数制かつ外国語で教える全学的教育プログラムです。講師は海外での勤務経験のある教員が務めます。

AI・データサイエンス全学プログラム

文理を問わず全学部生を対象として、AI・データサイエンス分野をリテラシーから応用基礎レベルまで系統的に学修するプログラムです。リテラシーレベルの科目「AI・データサイエンスと現代社会」・「AI・データサイエンス総合」、プログラミング言語などを学ぶ「AI・データサイエンスツールⅠ～Ⅳ」、ゼミ活動で課題解決型学習を行う「AI・データサイエンス演習」などの科目により、未来社会において新たな価値を見出す人材の育成を目指します。

教育力研究開発機構

2021年4月に、中央大学における教育のあり方について調査研究開発を行い、教育力を飛躍させることを目的として、教育力研究開発機構を設置しました。

本学の教育力飛躍のプラットフォームとして、①教育コンテンツに関する技術的問題への対

応、②オンライン授業コンテンツに関する権利問題への対応、③ICTを活用した教育技法の研究開発、④FDとSDとの連携した取り組み、⑤学修成果の評価技法の研究開発、⑥DXに対応した新しい学生ポートフォリオの開発などに取り組みます。

https://www.chuo-u.ac.jp/aboutus/efforts/r_and_d/



これからの授業デザイン・実践ハンドブック

「中央大学の授業におけるデジタル技術活用の方針」に基づき、「これからの授業デザイン・実践ハンドブック～デジタル技術活用のヒント～」を作成しました。デジタル技術を活用した授業デザインの解説や、その実践をしている教員の「グッドプラクティス」を広くまとめています。

学生・学習ポートフォリオ

中央大学では、学生・学習ポートフォリオを導入しています。成績や履修履歴などが自動で登録されるほか、学生自身で様々な情報が登録可能です。蓄積された情報は、大学で備えるべきものがどの程度身に付いているかを把握する助けになります。また履修計画を立てたり、進学・就職活動の際の大学生活の振り返りなどにも活かされます。

オープンバッジ

2021年度から一般財団法人オープンバッジ・ネットワークが発行するオープンバッジを導入しています。人生の様々なシーンで身に付けたスキルや経験を、一覽で他者に対しても示すことができる仕組みであり、本学では、新たな学修履歴・学修成果の可視化ツールとして位置付けています。

キャリアセンター「知性×行動特性」学修プログラム

- 4年間を通じてコンピテンシーを伸ばす独自の学修プログラム
- 社会で必要となる力を着実に身に付けるためのセルフマネジメント・サポートシステム「C-compass」(シーコンパス)

「社会で活躍できる人になるには、どのような力を伸ばせばいいのか」。そんな難題をクリアしてくれる中央大学独自のセルフマネジメント・サポートシステムが「C-compass」です。社会人に必要な「コミュニケーション力」「自己実現力」をはじめとする7分野31項目の「段階別コンピテンシー」※について半年単位で自己評価を行いながら、PDCAサイクル(計画→実行→評価→改善)を繰り返します。

